

6年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	・新出漢字に意欲的に取り組む一方、既習漢字の定着に課題がある。 ・描写から人物の心情を捉えたり、段落相互の関係に着目したり、筆者の意図を読み取ったりすることに個人差がある。 ・自分の伝えたいことを明確にして文章にまとめたり、相手に伝えるように適切な言葉を選択して説明したりするなど、分かりやすく表現することに課題がある。	・児童が見通しをもって自主的に取り組めるよう、小テストを予告して行う。また、定着を図るために家庭学習等で、各自の課題に取り組む機会を設ける。 ・文章の記述を根拠として、心情や段落相互の関係を話し合う時間を確保するなど、協働的な学びの成果を個に還元する活動を積極的に取り入れる。 ・対話的な学びの場面や個人の学びを発表する場面を意図的に設定し、相手を意識して話す経験を積む。	
社会	・政治の考え方や仕組み、働きについての知識は獲得できている。複数の資料から適切な情報を読み取ったり、自分の考えを発表したりすることに課題がある。 ・知識を獲得するだけでなく、歴史的背景や時代ごとの関係性について、考えを広げる必要がある。	・自ら本文や資料を読み解く活動を多く取り入れる。適宜複数の資料を提示し、関連付けながら考えられるようにするとともに、小集団での発表場面を多く取り入れる。 ・情報を収集したものを、整理分析してからまとめることで、時代相互の関連を考えられるようにする。	
算数	・なぜそのような式になるのかなど、概念的な知識の重要性を認識する必要がある。 ・拡大図縮小図と比の関連など、図形領域と数と計算領域を結び付けて、計算や作図することに課題がある。	・「なぜそうなるのか」という問いを重ねることで、公式をただ覚えるのではなく、思考をめぐらす習慣を付ける。 ・単元内容が混合したプリント教材を準備し、活用する力を付ける。単元学習後も定期的に練習問題に取り組んでいく。	
理科	・動物の体の仕組み（臓器の名称やそれぞれの役割）について理解を深める必要がある。 ・実験や観察の結果を基に考察し、より妥当な考えを作り出すことに課題がある。	・プリントやICT機器を活用した復習を継続して行うことで、知識の定着を図る。 ・結果を基に考えたことを伝え合い、他者と自分の意見を比較したり、共通点を見付けたりしながら、考えを形成していく活動を積み重ねていく。	
音楽	・音楽を形づくっている要素をもとに聴き取ったことと、自分が感じたことを関わらせて曲全体を捉え、自分の考えや思いを伝える力をさらに伸ばす必要がある。 ・曲想と音楽の構造との関わりを理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な技能をさらに高める必要がある。	・聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせながら、自分の考えをまとめ、様々な形態で対話し、考えをさらに深めていく活動を繰り返し行う。 ・楽曲への理解を深めながら、自分がどのように表現するかを考え、声や音を聴き合ったり話し合ったりしながら協働的に学び、思いや意図に合った表現を工夫していく活動を充実させていく。	
図工	・既習した材料を他の題材に生かす活動を充実させる必要がある。 ・水彩やアクリル絵の具における混色や水の加減、筆の使い方などを自分の感覚で調節し、操作できるよう手だてを講じる必要がある。 ・最後の仕上げまで自分なりの工夫を考え、粘り強く取り組む意欲を育てる必要がある。	・導入で、児童作品を例示しこれまで学んだ材料の特性を考える活動を取り入れるとともに、材料の置き場を年間を通して設定し、すぐに手に取れるよう場の設定を整える。 ・用紙や様々な描画材を用意することで、繰り返し取り組める時間を確保し、習熟度によって自身のめあてを再設定できるようにする。 ・題材の時間数やめあて、描画材のポイントを常に明示し、仲間の活動や作品の鑑賞時間を確保することで、最後まで工夫を考え取り組めるようにする。	
家庭	・自身の生活経験に結び付けて物事を考えたり、よりよい生活にするために工夫したりする力を育む必要がある。また、経験したことがない物事に対して、学習したことや調べる活動を通して、対応する力を伸ばす必要がある。	・日常化を意識して学習に取り組めるよう、学習課題の設定を工夫する。考えを広げるために、話し合い活動を適宜行う。また、実際に自分たちで物事を解決するために調べたり、計画したりする時間を確保し、生活に繋がられるように単元を組み立てる。	
体育	・バランス力や調整力、力強い動きや巧みに体を動かす力を高める必要がある。 ・個人やチームの課題を把握して、解決方法を選択したり、課題解決のための考えを伝えたりする力を更に伸ばす必要がある。 ・運動に積極的に取り組んだり、ルールを守り助け合って運動をしたりすることへの個人差を解消する必要がある。	・楽しみながら運動できる場の設定や、グループ編成の仕方を工夫して、動きを高める。 ・協働的な学習をもとに、適切に課題を設定できるようにする。動画等も活用し、課題を解決しやすい環境を構築する。 ・必要に応じてルールの簡易化や道具の選定、教材の精選を行い、意欲的に取り組めるようにする。仲間や相手と関わり合うことの楽しさを実感できるよう教材を工夫する。	